



第12回「ロータリーの友」地区だより（6月号）

6月、いよいよ村上ガバナーの任期が終える月となり、田辺クラブの私共が担当しました「ロータリーの友」地区委員の役割も今月までとなりました。最終の「ロータリーの友」地区だよりとなります。一年間大変有難うございました。おかげで私も真剣に「ロータリーの友」に一年間取組ませて頂き、多くのものを得て感謝申し上げます。皆様も今後益々「ロータリーの友」を御愛読頂きます様お願い申し上げます。

是非お目通し頂きたい記事

☆ 横組

- RI会長メッセージ 1頁
「心を添えて援助する」というテーマですが、この一年間RI会長として各地を訪問して感動した事を記述しています。そしてRI会長としての任期を終えるに当たり「ロータリーの未来はあなたの手の中に」というテーマを確認しています。
- 特集 ロータリー親睦活動月間 ロータリアンを結ぶ 5～9頁
世界のロータリアンが様々な親睦活動を通じて友人となり数々の奉仕活動に結びつけている様子を述べています。
- ロータリーの新しい歴史をつくる 2010年規定審議会レポート 12～15頁
2010年規定審議会は、Eクラブを「電子的な通信手段を通じて会合するロータリークラブ」と定義し正式に認めました。決議23-34については「社会奉仕に関する1923年の声明」の第1項は永遠にロータリアンの活動の哲学として残される事となりました。又、人頭分担金については年額1ドル増額が採択されました。その他、新世代奉仕が五大奉仕部門に加わり、出席免除の規定が変更された事等説明してあります。大きな改革ですので、御一読下さい。
- 世界の国から 26～27頁
地球上各地から寄せられるロータリーニュースを写真やグラフ入りで簡単に説明してあります。読みやすい記事になっています。
- わがクラブのすご腕新会員 28～31頁
全国各地で活躍する5人の新人ロータリアンを紹介してあります。やる気満々の新人ロータリアンに大いに刺激を受けます。
- 世界に羽ばたけ！ 米山学友 アフガニスタンの「KIBOU」 32～33頁
1951年カブール生まれで、アフガニスタンに「希望の学校」を創立した米山学友、スルターニ駿溪トロペカイさんの奮闘振りを述べています。25年ぶりに帰国後、見渡す限りのがれきの山の中、カブール校を開校し、苦難の中故郷の生徒に読み書きや洋裁、算数などを教えています。母国の再建に取り組む感動的な記事です。
- 2009-10年度 地区大会略報 39～41頁
4月17日～19日行なわれた2640地区大会略報は41頁に掲載されています。

☆ 縦組

- 曾祖父 ジョン万次郎 中濱 武彦 3～6 頁
土佐の漁村に生まれ、14歳で漂流した少年（ジョン万次郎）が捕鯨船に助けられアメリカに渡り、航海術・測量術・高等数学を学びました。20歳で帰国してその経験をどの様に伝えたのか、幕末の世にどの様な影響を与えたのか、大変興味ある講演内容です。
今、坂本龍馬が注目される中、タイムリーな記事でした。
- 手に手 くらぶ探訪 7～11 頁
日本で最初の東京ロータリークラブ
1920年創立の東京ロータリークラブ、太平洋戦争で解散の後、戦後1945年R Iへの復帰ができませんでした。日本で初のロータリークラブとして我々には近寄り難いクラブと思いましたが、その素顔をみて一度メーカーキャップもしてみたくになります。又その歴史の中で、多くの戦後の日本をつくり上げて来た人物が登場するのは興味あります。
- 卓話の泉 12～13 頁
饅頭の伝来一説 富田林南RC 奥田 辰造
饅頭にまつわるいろいろな由来、大変興味ある話でした。
- 俳壇 14～15 頁
「曇天に白木蓮の一樹あり」 大阪・堺 堤 淳
「お松明尽きて星空よみがえる」 大阪・堺フェニックス 米田 眞理子
- 柳壇 14～15 頁
「悟るにはまだ余生ある一人旅」 大阪金剛 井手 俊一
「目印の塔が都会のビルの中」 大阪・堺 松谷 湖塔
- 言いたい 聞きたい 16～17 頁
飽食のロータリーに「喝」 新発田 小島 慎二
二人だけの小さな炉辺会談 千葉北 石井 七郎
ロータリアンが考えなければならない本質的な問題について取り上げています。非常に考えさせられる二題です。

「ロータリーの友」地区委員 廣本喜亮（田辺RC）

E-mail : hiromoto1026@ybb.ne.jp

TEL : 0739-22-0571 FAX : 0739-26-7307